

2021 年度 「年度末学校関係者評価」(外部評価)

	項 目 (重点としたものに○)	学校の目標達成状況及び学校の取組の適切さ、改善方策について等の意見 (外部評価者からの指摘を基に記載)
教育環境の 充実	①学校安全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域と連携しながら教育環境の充実に取り組んでいることが高く評価される。(ex.登下校の見守り活動, 側溝清掃, 校門ペインティング, 園芸活動) ・学校事故防止会議で、他地区の事例を取り上げて学んでいることは評価される。 ・新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、可能な限り学校行事や地域行事を開催しようという学校側の姿勢が見られたのは良かった。
	②教育情報化の推進	
	③地域との協働推進	
	④学校評価を生かした学校づくり	
I 学習指導の 充実	①授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末・校内通信ネットワーク環境が整備され、ICTを活用した授業は確実に増えている。今後の推進には、効果的な活用、系統的な指導、安全性の担保が課題となるだろう。 ・各学年で地域の方の協力を得た教科学習に関連した活動を行ったことは、「社会に開かれた教育課程」づくりにつながるもので、継続が望まれる。 ・校内研究は、教員集団の学び合いに資するものなので、継続が望まれる。 ・児童アンケートで「授業が分かる」の問いに「思わない」「あまり思わない」と答えた数が若干多いように感じる。丁寧な分析と対策を講じる必要があるだろう。
	②健康体力づくりの推進	
	③体験活動の充実	
	④今日的課題への取組	
II 支援の充実	①支援環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や学校が楽しくないという子どもの数が少しでも減るよう、小規模校の良さを活かした取り組みが継続されることを望む。 ・支援教育について専門家から学ぶ等の校内での研修を深めたり、外部機関と協力・連携を図ったりしていることは、教職員の視野の拡大と深化につながり、有意義な取り組みである。 ・教職員の「個を見とる力の向上」は重要である。具体的手立てを考え、明確にしていく必要があるだろう。
	②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進	
	③問題行動対策・不登校対策の推進	
	④幼・保・小及び小・中の連携推進	
III 学校組織の 充実	①学校・学年・学級経営の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの教育のために、教員の働き方改革が推進されることを望む。 ・会議・研究会・研修会の効率的な運営に努めたり、学校徴集金の代金回収を業者に委ねて教員が極力携わらないようなシステムに移行したり、具体的な方策をとって働き方改革を進めていることは評価できる。これは、保護者のみならず、地域の理解と協力のおかげである。
	②研究・研修の充実	
	③信頼に基づいた指導の推進	
	④働き方改革の推進	

